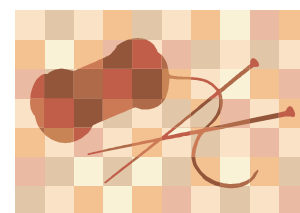


がん化学療法科 ニュースレター

ほほえみ 第12号



ほほえみ読者の皆様、いかがお過ごしでしょうか。このニュースレターもお蔭様で第12号となりました。一年前を振り返ると、今頃何をしていたかなあと感慨深いものがあります。今回は、一周年記念号にしたいと考えています。

新渡戸稲造記念 がん哲学外来

去る10月14日に、当院にて新渡戸稲造記念 がん哲学外来が開催されました。順天堂大学教授で、がん哲学外来の創始者としてもご高名な、樋野興夫先生に4組の方の面談をしていただきました。当院のスタッフも、見学させていただきましたが、樋野先生の言葉の中から印象に残った言葉をお伝えします。

① 偉大なるお節介

偉大なるお節介の定義は、相手の必要に共感したお節介だそうです。基本的に傾聴するのとは違いますね。似て非なるものに余計なお節介がありますが、これは相手が求めていることに対し、共感がないので、結局押し付けがましくなり、相手には喜ばれなくなります。共感するということが重要です。

② マイナス×マイナスはプラス

がん患者さんは、マイナスの気分を持った人、健康な人がプラスだとします。健康な人が、がん患者さんと接するとマイナスの気分になると言います。これは数学でマイナス×プラスはマイナスだから。がん患者さんが健康な人に混じろうとしても、健康にはなれないので、こちらも結局マイナスのままです。では、がん患者さんは、どうすれば良いかというと、自分より困っている人に助けの手を伸ばす。そこに両者にとっての救いがある(マイナス×マイナスでプラスに転じると、説明されていました。

③ JOYFULを目指す

英語でHappyは、お金、地位、家庭など外面的なものです。社会的に地位が高く、何不自由ない人が「がん」にかかると、外面的なものでは救われないから、結局、ものすごく落ち込んでへなへなになると言われていました。Happyを目指すのは競争に勝つ原理だからかもしれません。がんにかかると、Happyではなく、心の中から湧き出てくる喜び、すなわちJOYFULを目指す方が良いそうです。

このほかにも、「人生の目的は品性の完成なり」とか、がんというものを「解決できなくとも、解消しよう」とか、家族の方の、患者さんへの接し方としては「正論より配慮」など、珠玉の言葉が散りばめられており、濃厚な時間が共有されていました。

樋野先生には、早朝の新幹線で、はるばる盛岡までお越しいただき当初の予定の2倍の方の面談を行っていただきましたが、面談された方々は、皆様、吹っ切れたというか、スッキリされたというか、良い表情をされていたと思います。

今後は、メディカルカフェを行うと良いですよと樋野先生からアドバイスもいただいているので、11月に、プレオープンを行いたいと思います。メディカルカフェは、医療スタッフが運営するというよりは、患者さんや御家族が主体のものでもあるので、プレオープンで、皆様の御意見を伺い、12月以降には、本格的にスタートしたいと思っております。



新渡戸稲造記念 がん哲学外来

日本癌治療学会に出席して

10月27日から10月29日まで、第49回日本癌治療学会総会が名古屋市で行われました。日本臨床腫瘍学会が、内科系の学会とすると、日本癌治療学会は外科系の学会といえますが、内容に関しては、総論的には非常に似てきています。テーマは「Visionの共有目標への第一歩」というものでした。例年にない試みとしては、JSCO UniversityとDebate Sessionという企画があり、会場も総じて盛況でした。全国学会というものは総花的なものですが、講演会場が満員のところも多く、討論も比較的活発でした。

当科からは、低分化型大腸癌に対する化学療法の成績を発表しました。比較的稀なタイプの腫瘍であり、治療成績も報告がないものなので、意義深いものと考えています。名古屋は、円高で景気が悪いのかなと予想していましたが、街中は賑わいもあり、むしろ、一時のサブプライム・ローン問題の後の方が沈滞ムードだったように思います。しかし、一見しただけなので、当たっていないかもしれません。名古屋は暖かいイメージがあるのですが、当日は非常に冷え込んで、非常に驚きました(加藤)。



がんの予防

先日、いわて健康管理センター長の狩野敦先生から「がんの予防」(東北大学出版会)という本をいただきました。狩野先生は、私が当院の研修医をしていた頃に、直接指導を賜った先生です。消化器内視鏡に草創期から携わってこられた先生で、東北地方の消化器内視鏡のリーダーとして、多くの後輩の指導に当たってられておりますが、これまでの経験を339ページという本に纏められたのでした。

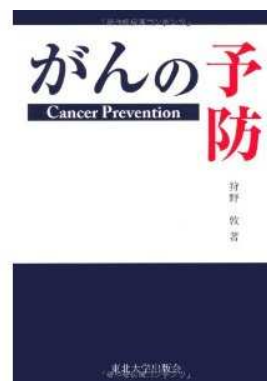
私のような、がん薬物療法を専門としている者にとっては、がんの予防ができればどれ程良いかと常々思う反面、予防は治療学からは遠い領域とも言え、恐らく、その辺りを狩野先生が見通されて(危惧されて)、著書を送って下さったものと拝察しております。

がんの予防は、

- 一次予防 : がんにならないようにする
- 二次予防 : がんを早期発見、早期に治療する
- 三次予防 : 本来治りにくいものを治してしまおう

というステップがあるのですが、最近、腫瘍学のフロンティアは分子生物学、分子遺伝学にあり、発癌のメカニズムも徐々に解明されつつあります。当科に来て頂いている柴田教授は、大腸癌発癌モデルで世界的な業績を挙げ、最近、大腸癌の化学予防に関して、様々な研究をされています。年齢調整しても、インド人の方ではがんが少ないというデータがあり、カレーなどに使われている香辛料の中に発癌を抑える物質があるのではないかとというのが着眼点であるとお聞きしておりました。

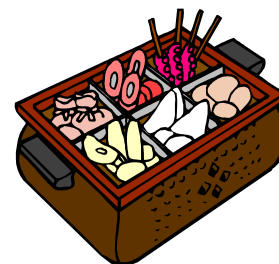
地道に「がんの予防」に取り組んで来られた先人達の、この病気に対する強い思いを胸に、同じ疾患の治療に携わる者として気を引き締めなければと思いました(加藤)。



MEMO

11月のがん化学療法科の予定

- 11月11日 柴田教授外来
- 11月19日 名医にQ 2011スペシャル
(20時、Eテレ、樋野先生の出演番組です)
- 11月25日 柴田教授外来
新渡戸稲造記念 メディカルカフェ プレオープン



おでんの美味しい季節ですね